

都市再生整備計画(第6回変更)

やまきたちく
山北地区

かながわけん やまきたまち
神奈川県 山北町

平成22年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	山北町	地区名	山北地区	面積	980 ㉞
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

<p>目標 大目標：西丹沢の玄関口として森林(もり)と清流を活かした快適で安全安心なまちづくり</p> <p>目標1:生活基盤施設の機能向上を図り、利便性の高い「うるおい」のある居住環境の整備 目標2:防災性の高い「やすらぎ」のある安全なまちづくり 目標3:「にぎわい」のある市街地整備</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>○ 山北町は神奈川県西部、東京都心から70km圏に位置し、面積22,470haで神奈川県内の市町村では横浜市に次いで2番目の広さで、北西は山梨県、西は静岡県に接する県際の町である。町の面積の90%が起伏の激しい急峻な山岳地帯であり、その大部分は丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園に指定され、昭和53年には三保ダム(丹沢湖)が建設され神奈川県民の水源地として厳しい開発規制がなされている。</p> <p>○ 今回、計画区域とした山北地区は、山北町南部地域で、南足柄市や開成町・松田町に接し、山北町の8割を超える人口が集中する町の中心地であり、国道246号線やJR御殿場線(山北駅、東山北駅)が通っており、特に山北駅周辺は町役場、公民館、健康福祉センターなどの公共施設や金融機関などが集中し、豊かな自然環境の中で、「ゆとり」のある戸建住宅が広がる住宅地帯を形成している。しかし、地形的に新規開発可能な土地は限られており、宅地開発には道路整備などの基盤整備が不可欠な状況になっている。</p> <p>○ 本町の人口は、昭和30年の町村合併当時には約16700人を有していたが、三保ダムによる集落水没、農林業の伸び悩みによる就業構造の変化により、山間部からの人口流出が続いた。平成7年度以降は山北駅周辺地区の人口減が顕著に見られるようになり、中でも20歳代の転出が全体の4割を占め、急速な少子高齢化が進行している。(平成17年の町人口:13000人) 地区別には、町の南部、南足柄市に隣接する地域の人口増が顕著である。</p> <p>○ 産業の現状は、第1次産業の就業人口の割合が周辺市町村と比較して高いが、耕地のほとんどを果樹(みかん)が占め農業収入は低い。第2次産業人口は町内外に工業立地が多く、山北町内からの通勤が可能であることから周辺市町村と同程度の35%となっている。第3次産業は周辺市町村と同程度の58%の人口比率を有しているが、これは丹沢湖周辺の観光レクリエーション産業の就業比率が比較的高いことによる。したがって、今回の計画エリア内の就業構造は、比較的に第2次産業への就労割合が高く、このことは急傾斜地が多い地形条件にありながら、工業用地整備や企業誘致によって、多くの中小規模の工場が立地し、これが雇用確保と定住促進効果を上げている。(これらの工場に就労する20歳代30歳代の若年層向けの良質な賃貸住宅供給が不十分なことが周辺市町への人口流出の大きな原因となっている。)</p> <p>○ 町では、山北町第2次土地利用計画(平成16年3月)で、今回の計画エリアを「生活拠点創生ゾーン」として位置づけて、まちづくりを行っている。</p> <p>○ 一方、山北駅前に集中している商店街は、町全域の物品購入の需要を満たすには至っておらず、生鮮食品や日用品を扱う「小売店」が比較的多く、「飲食店」は少ない。商店数、年間販売額とも年々減少しており、山北駅周辺の商店街で後継者不足と相まって、商店数で平成3年度から10年間で約22%減少し、年間販売額もこの間25%減少し、「空き店舗」が多く見られるようになっている。このことは地域住民の生活利便性に大きな影響を及ぼしている。また、観光面でも山北駅が丹沢湖・西丹沢方面の玄関口であり、エリア内には全国名水百選の「洒水の滝」やハイキングコースとして人気のある「高松山」といった県内レベルの誘致力のある観光資源がありながら、観光客の受け皿施設はまだ不十分である。</p> <p>○ 山北駅周辺では、豊かな観光資源を生かした観光ネットワークの形成に向けて、「洒水の滝」の周辺整備や河村城跡散策道の整備をはじめ、増加傾向にあるハイカーへの対応としてハイキングコースに道標設置や公衆トイレなどの環境整備を進めている。また、山北地区では駅周辺で開催される「やまきた桜まつり」が5万人近い来訪者を見込める集客イベントとなっているほか、洒水の滝祭り、室生神社の流鏝馬といった伝統行事や秋の産業まつりに誘客効果が発揮されている。しかし、山北駅周辺の観光スポットの魅力アップの取組みはまだ不十分であり、河村城址歴史公園の整備に合わせて自家用車で直接訪れることができるようなアクセス道路の整備が不可欠である。また、ハイキングコースに限らず、自動車や徒歩で町外から訪れる人々に対するサイン整備も不足している。</p> <p>○ また、山北町は豊かな自然環境に恵まれているが、その反面、山岳地帯のため急傾斜地や急峻な河川が多く、台風や豪雨などによる「がけ崩れ」や「水害」が発生し、今後も多くの自然災害発生の危険性を秘めている。また、南関東地震、東海地震、県西部地震、神縄・国府津・松田断層帯地震や富士山噴火などにより大きな被害発生が予想されていることから、町では災害予防・災害時や災害後の体制に至るまで、きめ細かな防災対策を進めることが求められている。</p> <p>○ また、山北町は、道路、公園、駅前広場など都市基盤整備が全般的に遅れており、特に地形的制約から避難活動や消防活動に支障のある狭隘な道路や耐震性が不足する橋梁が多数あることから、消火活動、救命活動、地震災害時の避難通路を確保など、住民生活の安全確保のために早急な対応・取組みが強く求められている。</p>
<p>課題</p> <p>○ 定住人口確保対策 ○利便性の高い生活関連の基盤整備 ○地域の防災力強化 ○商店街の「にぎわい」の再生 ○山北駅前の魅力づくり ○河村城址歴史公園や洒水の滝周辺の整備 ○子育て支援の体制づくり ○教育環境の充実 ○安全・安心のまちづくりの推進 ○地域の活力を創る商工業振興 ○地域の資源を生かした観光振興</p>
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>豊かで美しい「森林と清流」につつまれ、水源地域として定住と交流がより活性化するための土地利用を図るとともに、自然環境の活用と保全により魅力ある街並みの形成を目指す。この計画区域は町の中心地であり、生活拠点として、一層の機能集積を図り、住宅供給やさまざまな生活・福祉サービス、安全防災機能の向上・充実に努める。特に、JR御殿場線山北駅は西丹沢の玄関口であり観光客に対応した商店街の整備や、河村城址歴史公園周辺を歴史と自然にふれあう公園として整備することによって、町内外の人々のふれあい交流拠点としての整備を推進する。また、本町東部の基幹駅である東山北駅周辺地区についても利用者の安全性、快適性・利便性の高い駅周辺整備を推進します。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
人口の減少率	%	山北町山北地区(平山を含む)、岸地区、向原地区の年間人口減少率	居住環境・利便性の向上により、区域外への人口流出を減らすとともに、新規定住者を増やすことにより、「人口減少率」を半分程度に抑える。	-1.1%	平成17年度	-0.5%	平成22年度
災害時の情報収集能力	件/3分	災害対策本部における情報収集・提供能力(情報収集・伝達訓練を実施する)	新たな情報通信システムの導入と災害対応の体制整備により、町民への迅速的確な情報提供に必要な被災現場や避難所との情報収集能力(時間当たりの情報収集件数)の大幅な向上が期待できる。	1(件/3分)	〃	7(件/3分)	〃
観光入込客数	人	観光入込客数調査における山北地区の年間観光入込客数	観光交流と商店街振興により「にぎわい」を再生し、山北駅周辺の入込客数を5%程度の増加させる。	318,500人	平成16年度	334,500人	〃

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1(良好な居住環境の形成による人口定着)</p> <p>○新たな宅地開発の誘導や生活道路として利便性向上のため道路整備を行う。</p> <p>○小中学校を地域の「コミュニティ施設」として積極的に活用を図り、その事業拡充に合わせて快適な教育環境を整備し、優れた子育て環境を創出するとともに、この教育環境を対外的に発信(PR)することにより定住促進を図る。</p> <p>○防災性の環境を整備し、子供から高齢者まですべての世代が安心して住み続けられるまちづくりを行う。</p> <p>○JR御殿場線山北駅周辺に公的住宅(特定優良賃貸住宅)及び街区公園の新規整備を行うとともに、避難場所に指定された学校・公園などに街灯として利用できるハイブリッド発電による電源施設を整備する。</p> <p>○地域の利便性を高める町民の生活交通確保対策の一つとして、JR御殿場線山北駅を基点にした町内循環バスを運行する社会実験を行う。</p> <p>○JR御殿場線東山北駅前に新たに駅前広場を整備する。</p>	<p>■基幹事業 道路事業(町道55号線橋梁架替事業)、道路事業(町道259号線新設事業)、道路事業(町道64号線改良事業)、道路事業(町道221号線耐震補強事業)、地域生活施設整備事業(地域防災無線システム導入事業、ハイブリッド型発電施設設置事業)</p> <p>□提案事業 地域創造支援事業(教育環境快適化事業)、地域創造支援事業(学校施設防災対策事業)、まちづくり活動推進事業(駅周辺魅力づくり検討事業、町内循環バス運行事業)</p> <p>●関連事業 町道原耕地14号線新設事業、町道松原先1号線改良事業、町道鍛冶屋敷高杉線改良事業、町道鍛冶屋敷線改良事業、中橋耐震補強事業、安洞橋耐震補強工事、永安橋耐震補強工事、総合体育館建設調査事業、山北街区公園整備事業</p>
<p>・整備方針2(賑わいのある市街地整備)</p> <p>○交流人口の増加を図るため、中世の城郭跡である河村城址歴史公園の整備及び自家用車で訪れる来訪者のためにアクセス道の整備を行う。</p> <p>○山北地区の観光交流スポットを結ぶサインを導入し、観光地としてのイメージアップを図るとともに、太陽光発電と風力発電を併用した街灯を整備する。</p> <p>○山北地区の活性化と魅力アップを図るため、協議会を設置して、行政と地域住民・関係団体との協働による今後のまちづくりの調査・検討を行う。</p> <p>○商店街再生のために駅前住宅に屋内オープンスペースを整備する。</p> <p>○山北駅周辺のメインストリート(町道1号線)を中心に道路整備を行うとともに、街区公園などの都市基盤を整備する。</p> <p>○「洒水の滝」などを訪れる観光者の利便性を高めるなど地域の魅力アップを図るため、JR御殿場線山北駅を基点とした町内循環バスを運行する社会実験を行う。</p>	<p>■基幹事業 公園事業(河村城址歴史公園整備事業)、道路事業(町道221号線耐震補強事業)、道路事業(町道266号線新設事業)、地域生活施設整備事業(情報板設置事業)</p> <p>□提案事業 まちづくり活動推進事業(駅周辺魅力づくり検討事業、町内循環バス運行事業)</p> <p>●関連事業 大野山桜の里づくり整備事業、浅間山農道整備事業</p>
<p>・整備方針3(地域の防災性向上)</p> <p>○デジタル式地域防災無線ネットワークシステムを導入することにより、災害時に密接・迅速な情報伝達性を確保する。</p> <p>○川村小学校の防災拠点としての機能を高めるため、屋内避難施設(体育館)の改修や倒壊危険建物の除却を行う。</p> <p>○JR御殿場線の跨線橋(町道221号線)の耐震補強を行う。</p> <p>○大規模停電時において、非常用電源として電力を供給する機能を有する太陽光発電と風力発電を併用した街灯を整備する。</p>	<p>■基幹事業 地域生活施設整備事業(地域防災施設整備事業、ハイブリッド型発電施設設置事業)、道路事業(町道221号線耐震補強事業)、道路事業(町道55号線橋梁架替事業)、道路事業(町道259号線新設事業)、道路事業(町道64号線改良事業)</p> <p>□提案事業 地域創造支援事業(学校施設防災対策事業)、まちづくり活動推進事業(駅周辺魅力づくり検討事業)</p> <p>●関連事業 中橋耐震補強事業、安洞橋耐震補強工事、永安橋耐震補強工事</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>「駅周辺魅力づくり検討事業」(まちづくり活動推進事業)については、山北町の玄関口としてふさわしい「誘客促進のための個性的な魅力づくり」と「利用促進のための基盤環境整備」に継続して取り組む。</p> <p>「河村城址歴史公園整備」については、平成22年度終了後も公園整備に継続して取り組む。</p>	

都市再生整備計画の区域

山北地区(神奈川県山北町)	面積	980 ha	区域	山北町山北、岸、向原、共和(平山を含み、高松を除く)
---------------	----	--------	----	----------------------------



やまきた やまきたまち
山北地区(神奈川県山北町) 整備方針概要図

目標	大目標: 西丹沢の玄関口として森林と清流を活かした快適で安全安心なまちづくり	代表的な指標	人口減少率 (%)	-1.1	(17年度)	→	-0.5	(22年度)
	目標1 生活基盤施設の機能向上を図り、利便性の高い「うるおい」のある居住環境の整備		災害時の情報収集能力 (件/3分)	1	(17年度)	→	7	(22年度)
	目標2 防災性の高い「やすらぎ」のある安全なまちづくり		観光入込客数 (人)	318,500	(16年度)	→	334,500	(22年度)
	目標3 「にぎわい」のあるJR山北駅周辺整備							

